

「札幌をはじめ、道内全域で急性期病院の受け入れが困難な状況であり、搬送先の選択が難しくなっています」

危惧されているコロナによる医療崩壊がまさに現実のものに。脳外科の医師として、脳疾患の早期発見・治療はも

とより、いかに脳卒中や脳梗塞を防ぎ、救急搬送を回避できるか試行錯誤している。「入浴する際の温度設定や水

急性疾患の発症を防ぎ、患者の命を守る

分補給の方法、湿度調整なども重要」と患者へのアドバイスは心臓への負担を配慮し、生活の細かな点にまでおよぶ。また、外出自粛によって社会とのつながりを寸断された高齢者への心配りも忘れない。「一日誰とも言葉を交わさず過ごす独居高齢者も多く、当院が人と関わる唯一の場所という方もいます。認知症の予防、進行を抑える意味でも、これまで以上に患者さんとの対話を心がけ、心身の健康維持に努めます」と改めて患者と向き合う覚悟だ。



谷藤 典音氏

江別谷藤脳神経クリニック院長

(たにふじ・のりと) 1964年札幌市出身。92年東京医科大学卒業。中村記念病院勤務などを経て、09年11月江別谷藤脳神経クリニックを開院。